

京都市地域コミュニティ 活性化推進審議会 第2回部会

令和6年12月4日

第 2 回部会資料

(テーマ 1)

地域住民をはじめ、大学や地域企業など多様な主体が地域活動に参加しやすくなるきっかけや担い手を増やす仕組みづくり

令和 6 年 1 2 月 4 日

地域コミュニティ活性化推進審議会 第 2 回部会資料

テーマ1の部会の進め方

第1回部会

それぞれの
テーマに関する
京都市の取組の
説明



出席者による
フリートーク
(発散的に)

論点整理



第2回部会

論点に関する
フリートーク
(収束的に)



まとめ

今年度第1回部会における論点まとめ

現状・可能性	課題	できたらいいこと
<活動への参加について> ・(HPなど)自分で調べて ・講義を受けたことをきっかけに ・紹介されて <活動の継続について> ・地方出身学生の居場所に ・専門分野を活かせる ・やりたい人の思いを大切にする <連携について> ・活動を通じて交流が生まれている ・交流により出展団体同士の目的が達成されている ・(大学など)域外の協力	・情報不足 ・便利使いされる ・主体性が発揮できない ・関わりたい人と地域団体にギャップ ・大学や行政主導では続かないことが多い ・地域内に資源がない ・何が資源となり得るかわからない	・地域活動、ボランティア活動等の説明会の場 ・地域の魅力や活動の発信 ・お互いのニーズや期待値を共有するコミュニケーションの場 (マッチング機能) ・地域資源や団体の活動の見える化、交流の促進

今年度第2回部会における論点と方向性

<第1回の議論を踏まえた方向性>

【理想的な状況】

- 地域活動やボランティア活動を知る機会や学生・企業等の多様な主体が交流できる機会や場がある。
 - 地域活動に関わりたい主体と地域団体とのギャップを埋めることができる。
 - 学生や地域企業等も一主体として、(自身の得意分野等で)地域と一緒に活動に関われる。

⇒ 「地域課題の解決」や「やりがいや楽しさ」、「活動の継続性」の好循環の実現

<第2回部会で深めたい視点>

- ・ 地域の中でそういった場や機会を増やしていくために、現状できていることや、現在の取組に付加すべきこと、新たに実施すべきことは？
- ・ 学生の意識にも濃淡があることを前提として、追加すべき視点や取組は？

<新たに御意見をいただきたい視点>

- ・ 「地域活動に接点を持ちにくい地域住民」への働きかけ方、接点の持ち方は？
- ・ 「地域企業」や「NPO」等について追加すべき視点や取組は？

今後のスケジュール(案)

- 本日
↓
第2回部会開催
(いただいた意見を踏まえ、事務局にて素案の作成)
- 令和7年2月末:
↓
自治会・町内会アンケート締切(令和6年11月下旬から実施)
- 令和7年春頃:
↓
第2回審議会開催
- 令和7年春～夏ごろ:
↓
次期ビジョン素案に基づき議論
- 令和7年夏ごろ:
↓
次期ビジョン案のパブリックコメントを実施
- 令和7年冬ごろ:
↓
パブリックコメントを踏まえた最終案を提示
- 令和8年1月:
次期ビジョン策定